



証券コード: 7963

平成28年12月期 第2四半期決算説明資料

「世の中にない」「真に役立つ」
それが、私たちの研究開発の出発点です。

クリーン、ヘルス、セーフティで社会に
 **興研株式会社**

営業の経過及び成果

当第2四半期連結累計期間(平成28年1月～6月)におけるわが国経済は、景気の先行きが不透明な中、日銀によるマイナス金利政策の実質的な効果も顕れず、むしろ円高・株安で推移し、更に英国のEU離脱(Brexit)決定により、円の独歩高・一段の株安の状況まで進みました。

このような経営環境の中、当社グループでは「クリーン、ヘルス、セーフティ」の3市場に対する戦略商品の普及及び新規物件の受注活動を強化し、その結果、売上高は前年同四半期に対し1億27百万円増の38億58百万円(前年同四半期3.4%増)となりました。

利益につきましては、オープンクリーンシステム「KOACH」の成約件数の増加、マスク全般の販売増などによる売上原価率の低減や業務の効率化を推進したことによって、営業利益億3億6百万円(同24.9%増)、経常利益2億27百万円(同6.7%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益1億42百万円(同61.4%増)となりました。

セグメント別の業績は以下の通りです。

(マスク関連事業)

製造業向けを中心とした産業用の防じん・防毒マスクの販売は引き続き堅調でした。それに加え、昨年後半からリフレクトリーセラミックファイバー対策用として電動ファン付き呼吸用保護具「ブレスリンク」シリーズの需要が急増しました。

その結果、当事業の売上高は34億41百万円(同4.9%増)となりました。

(その他事業／環境関連事業等を含む)

オープンクリーンシステム「KOACH」の販売は『アクチュアルクリーン(実際の作業中の清浄度)』を訴求する新たな営業活動を代理店、販売店と協働して行い、成約数を着実に伸ばしておりますが、売上高については、前年同四半期に納入した東京大学宇宙線研究所重力波望遠鏡施設(かぐら)をはじめとした大型物件の減少分を補うまでには至らず、当事業の売上高は4億16百万円(同7.6%減)となりました。

業績の概要

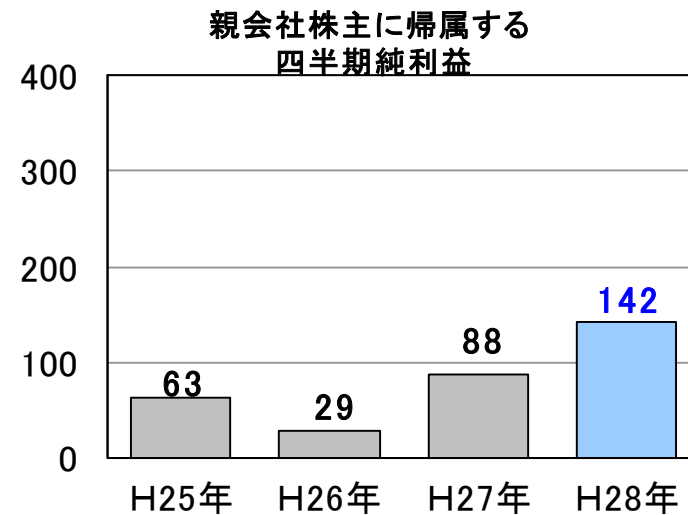
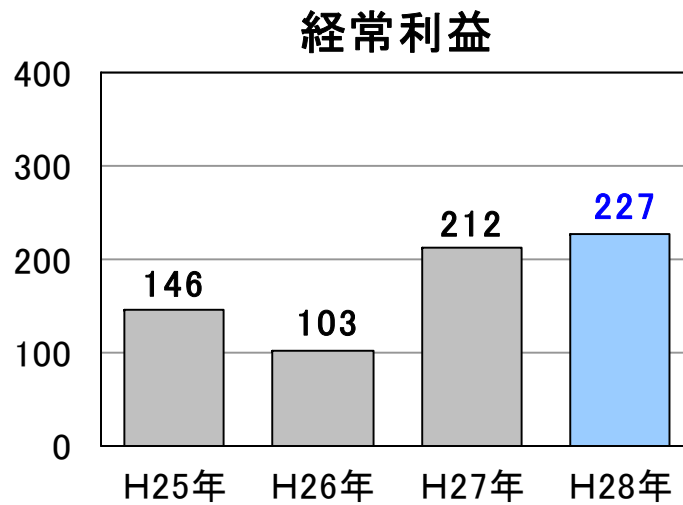
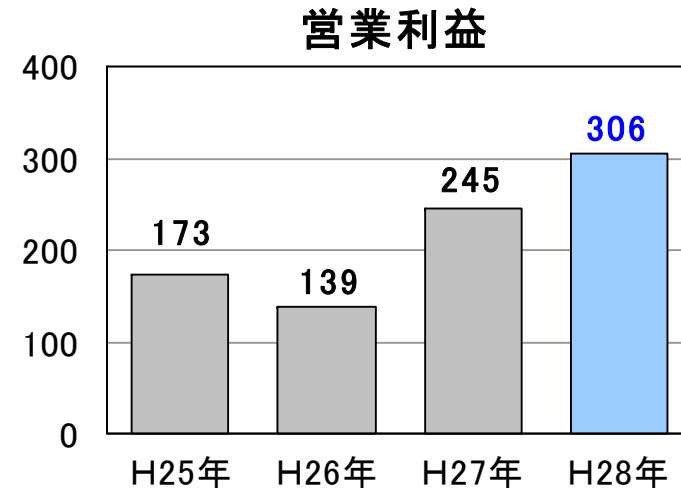
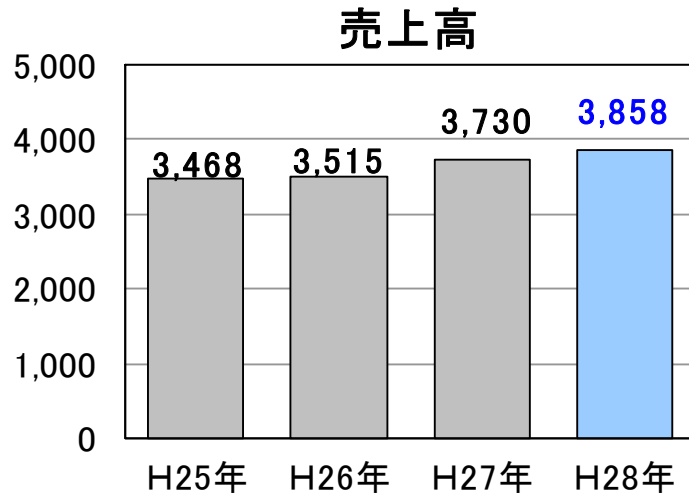
(単位:百万円/端数切り捨て)

	平成27年12月期 第2四半期連結累計期間		平成28年12月期 第2四半期連結累計期間	
	金額	比率(%)	金額	比率(%)
売上高	3,730	100.0	3,858	100.0
売上総利益	1,742	46.7	1,875	48.6
営業利益	245	6.6	306	7.9
経常利益	212	5.7	227	5.9
親会社株主に帰属する 四半期純利益	88	2.4	142	3.7
1株当たり四半期純利益(円)	17.38	—	28.26	—

	平成27年12月31日	平成28年6月30日
総資産	16,294	16,111
負債	7,403	7,301
純資産	8,891	8,809
自己資本比率(%)	54.2	54.3
1株当たり純資産(円)	1,739.64	1,744.59

売上高・利益の推移

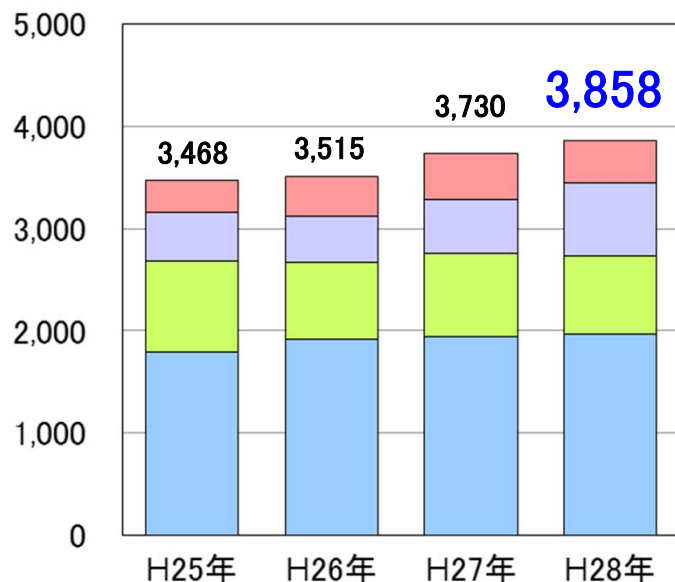
(単位:百万円/端数切り捨て)



※平成26年12月期より、連結決算に移行しております。

セグメント別売上高の推移

(百万円)



(単位:百万円/端数切り捨て)

事業の状況

マスク関連事業 (防じんマスク、防毒マスク、マスク関連その他製品)
 官公庁用マスクの販売は前年同四半期を下回ったものの、産業用の防じんマスク、防毒マスク、その他製品の販売はそれぞれ堅調でした。
 発がん性のおそれがある物質であるリフラクトリーセラミックファイバー対策用として電動ファン付き呼吸用保護具「ブレスリンク」シリーズの販売が伸びました。

その他事業 (環境関連事業等を含む)

オープンクリーンシステム「KOACH」の販売では、スタンドコーチを中心として研究・製造の両分野で着実に成約数を伸ばしましたが、売上高は前年同四半期に納入した大型物件の減少分を補うまでには至りませんでした。
 官公庁向け環境製品の販売は好調でした。

品目区分	平成25年 第2四半期		平成26年 第2四半期		平成27年 第2四半期		平成28年 第2四半期	
	金額	比率	金額	比率	金額	比率	金額	比率
防じんマスク	1,788	51.6%	1,914	54.4%	1,938	51.9%	1,974	51.2%
防毒マスク	888	25.6%	761	21.7%	824	22.1%	752	19.5%
マスク関連その他製品	478	13.8%	446	12.7%	517	13.9%	714	18.5%
小計	3,154	91.0%	3,122	88.8%	3,280	87.9%	3,441	89.2%
その他	313	9.0%	392	11.2%	450	12.1%	416	10.8%
合計	3,468	100.0%	3,515	100.0%	3,730	100.0%	3,858	100.0%

※品目別売上高につきましては、子会社による販売がないため、親会社の数値を掲載しております。

トピックス

◇オープンクリーンシステム「KOACH」が米国科学誌で論文公開されました。

当社は、科学技術振興機構 戦略的創造研究推進事業の一環である『DNA解析用卓上型クリーンルームの開発』（広島大学、農研機構の共同研究）にオープンクリーンシステム「KOACH」の製造メーカーとして参加し、その成果が米国科学誌「BioTechniques」オンライン版で論文公開されました。

【掲載誌】

「BioTechniques」(Vol. 61, No. 1, July 2016, pp. 42-46)

【論文のタイトル】

(英文) Development of a bench-top extra-cleanroom for DNA amplification

(和文) DNA増幅のための卓上型エクストラクリーンルームの開発 (doi)

10.2144/000114433

【論文のポイント】

- ・すべてのDNA解析方法において、外来DNAの混入は重大で防ぎにくい問題だった。
- ・空气中を浮遊する微粒子が主な汚染源であり、実験器具の静電気も重大な要因であることを明らかにした。
- ・DNAの混入をほぼ完全に防止できる、DNA増幅用の卓上型クリーンルームを開発した。

※本論文に関するWebサイト

[KOACH採用ユーザーの論文情報](http://www.koken-ltd.co.jp/koach/voice.html)

<http://www.koken-ltd.co.jp/koach/voice.html>

卓上型エクストラクリーンルーム



テーブルコーチ「KOACH T 500-F」
+ 飛来物防止板(フード)
+ イオナイザ(除電器)

◇RCF対策用として電動ファン付き呼吸用保護具「ブレスリンク」シリーズの需要急増

リフラクトリーセラミックファイバー(RCF)及びこれを含有する製剤その他の物(RCF等※)は、発がんのおそれがある物質として特定化学物質障害予防規則の措置対象物質(管理第2類物質)に追加されました。

RCFを断熱材等として用いた設備等の施工・補修・解体等作業では、発じんのおそれが高いため「電動ファン付き呼吸用保護具」などの「有効な呼吸用保護具」の使用が義務付けられ、その対策用として電動ファン付き呼吸用保護具「ブレスリンク」シリーズの需要が急増しました。

RCF等※ RCFとこれを重量の1%を超えて含有する製剤その他の物。なおRCFは、アルミナとシリカを主成分とした人造鉱物繊維の総称で、バルク、ブランケットをベースとして、様々な形状や形態の二次製品が製造され、幅広い市場で使用されている。

主なRCF対策用電動ファン付き呼吸用保護具



BL-321S(粉じん用)

- ・電池一体型、軽量タイプのコードレス式電動ファン付き呼吸用保護具



BL-711H(粉じん用)

- ・目の保護を同時に行える全面形の電動ファン付き呼吸用保護具
- ・会話が明瞭なスピーカーを装備

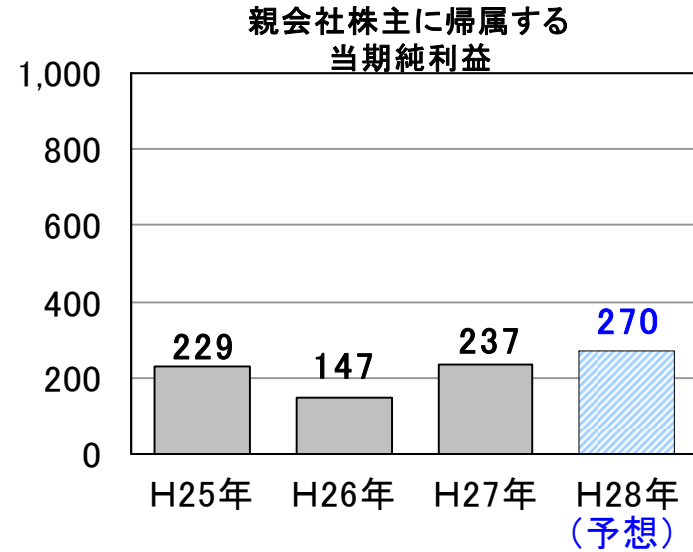
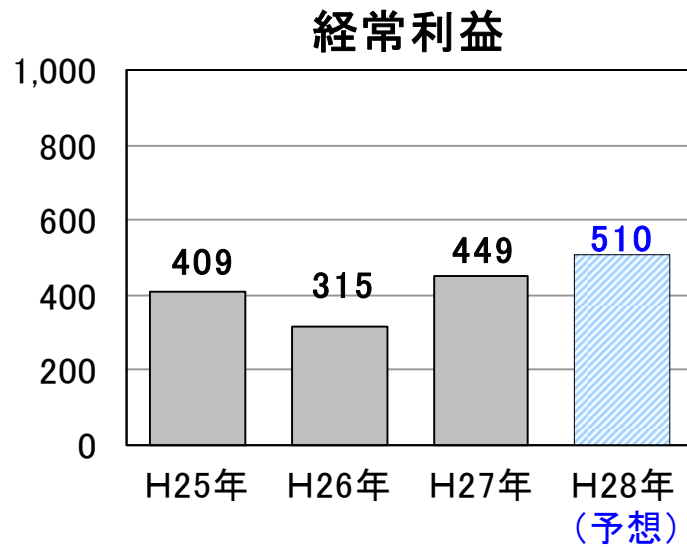
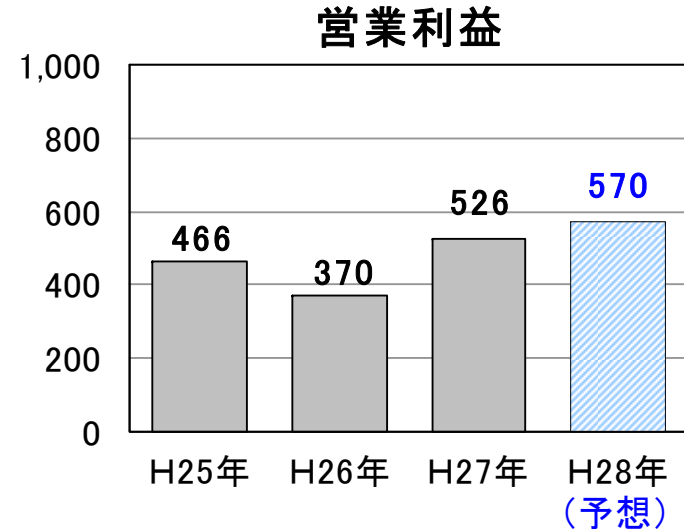
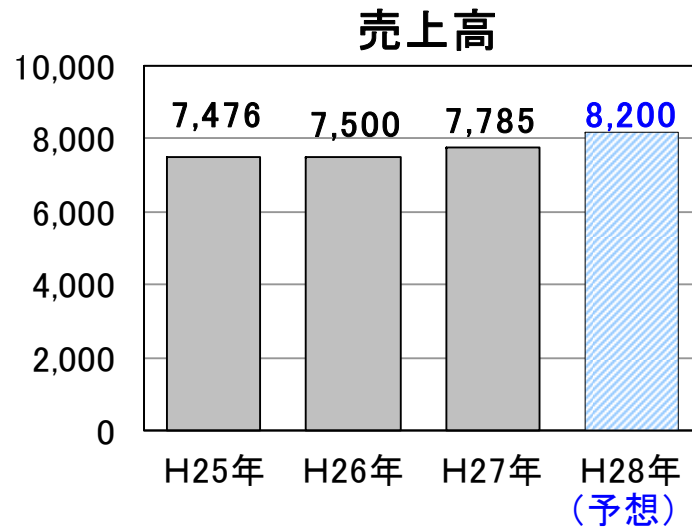


BL-351HGX(有機ガス・粉じん用)

- ・除毒機能付きフィルタを取り付けることができる有機ガス用電動ファン付き呼吸用保護具

通期連結業績予想

(単位: 百万円 / 端数切り捨て)



※平成26年12月期より、連結決算に移行しております。

本資料に記載されている業績予想数値等の将来に関する記述は、「平成28年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）」発表日（平成28年8月9日）現在において、当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。

本資料に関するお問い合わせ先

興研株式会社
広報・IR室

TEL 03-5276-1932
FAX 03-5276-6530
Eメール ir@koken-ltd.co.jp
ホームページ <http://www.koken-ltd.co.jp/>